

特別支援（知的）あゆみ1学級 国語科学習指導案

日時 令和3年11月25日（木）5校時

児童 1年男2名、5年男2名

授業者

1 単元名 「感謝の気持ちを表そう」

2 単元の目標

- (1) 感謝のはがきを書く相手を決めて、相手に合わせてはがきを書くことができる。
- (2) 自分の書いた感謝のはがきを発表することができる。

3 単元設定の理由

あゆみ1学級は知的障がい学級で、5年D児を除き3人は自閉症スペクトラムまたは、自閉症スペクトラム傾向を併せもっている児童である。子どもたちは、生活の場面では、他の人に対して優しく接したり、思いやりのある行動を示したりすることができる。しかし、5年D児以外は文字をスムーズに読めないで、文章を読んだり書いたりするのが苦手だ。短い文を読んだり、なぞったり、書き写したりする活動には取り組めるが、自分の気持ちを話すことはあっても書く機会はほとんどない。

そこで、手紙やはがきを書く活動に書いた相手に渡す活動を組み合わせ、感謝の手紙やはがきを渡すと相手に喜んでもらえるというモチベーションを与えながら、自分の気持ちをはがきを書く単元を設定した。同学年の2人が国語を学習する時、他学年の2人は交流学級で、あるいは他の教師と他の教科を学習しているので、4人が一緒に国語を学習することはないが、感謝の気持ちを文字で表すはがきを書く活動であれば、それぞれの力量に応じて4人が一緒に学習できると考えられる。

4 児童について

国語の時間、1年生の二人は教科書を中心に学習しているが、ひらがなの習得に時間がかかり、交流学級より進度は遅れている。5年生のC児は、人の話を理解したり、自分から話をしたりすることは難しく、単純な言葉で繰り返し話しかけることで意思の疎通を図っている。ひらがなやカタカナ、アルファベット等の読み書きはできるが、文字を正しく整えて書いたり、言葉を発したりすることが苦手なので、国語の時間は、簡単な文章をなぞらせたり、絵カードを使って漢字に興味をもたせたりしている。D児は、5年生の教科書を中心に学習している。1年生の二人と5年生のC児は、文字を読むのが苦手で、1文字ずつしか読めないで、読書は読み聞かせをしないと、絵本の絵だけを見て終わってしまう。1年生の二人は、短く区切って繰り返し練習すると教科書も読めるようになってきた。

5 指導に当たって

まず、お礼のはがきの例文を紹介し、お礼のはがきを書くことに興味をもたせる。次に、一斉指導だけでは指示が伝わりにくいので、「お礼のはがきを書く順序」を提示し、学習の見通しをもたせ、

「今何をやっているか。」「次に何をやるか。」を把握させながら学習を進める。

「お礼のはがきを書く順序」

- ① はがきを書く相手（いつもお世話になっている人）を決める。
- ② どんなことでお世話になっているかを考える。
- ③ 相手の名前（呼び名）を書く。
- ④ お礼したい内容を含めてお礼の言葉を書く。
- ⑤ 自分の名前を書く。
- ⑥（絵や飾りを入れる。）
- ⑦ はがきを読む練習をする。
- ⑧ 発表する。
- ⑨ 清書する。
- ⑩ はがきを渡す。

1年生の二人は、はがきを書くことは新しい経験なので、特に配慮を必要とする。

そこで、学習の順序が分かるような掲示や学習シートを工夫する。①、②については、数名分書けるようにし、その中から選ばせる。どんなことでお世話になっているかを考えられない場合は、いくつか候補を用意しておき、その中から選ばせる。なるべく押しつけではなく、日常生活を振り返らせながら本人の意思で選択させたい。

6 単元指導計画（4時間）

	活動名	学習内容	時間
第1次	感謝のはがきを書こうⅠ	・家族にお礼のはがきを書く。(本時) 1 / 2	2時間
第2次	感謝のはがきを書こうⅡ	・家族にお礼のはがきを書く。	2時間

7 本時の指導

- (1) 目標
- ・「はがきを書く順序」を知り、自分が世話になっていることを入れて家族にお礼のはがきを書くことができる。
 - ・自分なりの感想を持ちながら、はがきの発表を聞くことができる。

(2) 児童の実態と本時の目標

氏名	児童の実態	本時の目標	評価の観点
1年A	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがな五十音は、半数近く読み書きできる。音読は耳で覚えて読むので、文章が多いと読めなくなる。 ・気分が乗ると集中して学習に取り組むが、乗らないと離席してしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が家族からどんなことで世話になっているかを思い出し、書くことができる。 ○最後まで集中して学習に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が世話になっていることを思い出し、はがきを書くことができたか。 ・みんなの発表を静かに聞くことができたか。
1年B	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがな五十音は、半数近く読み書きできる。舌の動きが悪く、正確に発音できない文字があるので、話が不明瞭で聞き取りにくい。 ・落ち着いて学習に取り組めるが、周りに流されやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が家族からどんなことで世話になっているかを思い出し、書くことができる。 ○最後まで集中して学習に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が世話になっていることを思い出し、はがきを書くことができたか。 ・みんなの発表を静かに聞くことができたか。
5年C	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなやカタカナは、読み書きできるが、文字を正しく整えて書いたり、言葉を発したりすることが苦手である。自力で自分の考えを書くことはできない。 ・自分が気に入った活動にしか取り組めない、 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が世話になっている家族を選び、はがきを書くことができる。 ○最後まで集中して学習に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が世話になっている家族にはがきを書くことができたか。 ・みんなの発表を静かに聞くことができたか。
5年D	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちや考えを表すのが苦手である。今までの出来事を思い出すのに時間がかかる。 ・文章を視写したり、音読したりするのは、スムーズではないができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が世話になっていることを具体的にはがきに書くことができる。 ○みんなの発表に対して感想を持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が世話になっていることを思い出し、はがきを書くことができたか。 ・みんなの発表への感想を持つことができたか。

(3) 本時の展開

学習内容・活動	指導の手立てと留意点	教具等
<p>1 あいさつをする。</p> <p>2 お礼のはがきの例文を聞く。</p> <p>3 お礼のはがきを書く順序を知る。</p> <p>4 はがきを書く相手（いつもお世話になっている人）を決める。 ・お世話になっている人を学習シートに書く。 ・どんなことで世話になっているかを思い出し、学習シートに書く。 ・お世話になっている人の中からはがきを書く相手を決める。</p> <p>5 下書き用紙に例文を参考にし書き込む。</p> <p>6 絵や飾りを入れる。</p> <p>7 はがきを読む練習をする。</p> <p>8 書いたはがきを発表する。</p> <p>9 感想を発表する。 ・自分が感じたことを発表する。</p> <p>10 あいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日直に、元気にあいさつするように声をかける。 ・お礼のはがきを聞いてはがきを書く意欲を高める。 ・学習の順序を提示して、学習のゴールまで頑張る意欲を持たせる。 ・はがきを書く相手と何に対してのお礼かを意識させたい。 ・ヒントカードには、それぞれの家族とお世話になっていると思われる内容を記し、必要に応じて提示する。 ・D児は、「はがきを書く順序」に基づいて、なるべく自力で行わせたい。 ・1年生のA児とB児には、同時に指導に当たるが、お互い真似をし合わないよう、各自の生活を資料等で振り返らせる。 ・C児には、はがきを書く相手を一緒に考える。 ・ヒント入りのはがきのわくを下書き用紙の上に重ねてお礼のはがきを書かせる。 ・お礼の内容に合わなくても自分なりのデザインでよいことを伝え、安心させる。 ・口の形に気をつけて読ませたい。 ・発表は、状況に応じて弾力的に行う。 ・発表のいいところを見つけながら聞くように促す。 ・はがきのよかったところやこうすればよかったところなどを発表させる。 ・みんなの前で発表できたところを認め、次時の意欲につなげる。 ・日直に、元気にあいさつするように声をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「お礼のはがきを書く順序」 ・学習シート ・ヒントカード ・下書き用紙 ・はがきのわく

(4) 板書計画

⑩ はがきをわたくす。

⑨ せいしよをかく。

⑧ はつびようする。

⑦ よむれんしゆうをする。

⑥ えやかざりをいれる。

⑤ じぶんのなまえをかく。

④ おれいのことばをかく。

③ あいてのなまえをかく。

② いるかをかんがえる。

① はがきをかくあいてをきめる。

「おれいのはがきを
かくじゅんじよ」

- ・短冊にして順番に掲示する。